

令和元年度

# 事業報告

社会福祉法人 シルヴァーウィング

特別養護老人ホーム 新とみ

短期入所生活介護 新とみ

通所介護 新とみ

ウィング訪問ケアステーション

# I. 施設関係

## 1. 特別養護老人ホーム

### (1) はじめに

本年度は定員 40 名に対し、30.3 名の入所者数でした。月平均利用者実人員は 34.1 人と、昨年と比較し 3.8 人の減少です。長期入院、看取りなどによる退所者は 10 名、新規利用者は 14 名です。年度末現在の利用者の平均年齢は、男性 83.7 歳、女性 88.9 歳であり、男女合計の平均年齢は 88.0 歳です。なお、特養の年間平均稼働率は 75.75% です。30 年度 85.19% に比べると、稼働率は 9% 以上下がっています。

表 1 前年度との比較 定員 40 名

項目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
平均年齢	87.6 歳	88.7 歳	88.0 歳
平均介護度	4.48	4.49	4.44
年度末平均人数	39 人	32 人	33 人
延べ定員数	14,600 人	14,600 人	14,640 人
1 日平均利用者数	36.8 人	34.1 人	30.3 人
稼働率	92.08%	85.19%	75.72%

表 2 退所者 平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日

退所者	人数	理由
死亡	4 名	入院による死亡
死亡	4 名	施設での看取り
入院	1 名	療養型病院へ入院
その他	1 名	在宅復帰→新とみ通所介護へ変更

### (1) 入・退所の現状

- ①入院以外は、施設での看取りを行い、看護師・介護職・嘱託医・家族との連携を密に長く過ごしていただいた居室にて、最期を迎えてもらうことができました。
- ②新規利用者は 14 人でした。新規利用者については、入所後、環境の変化による心身の変動が見られることが多いが、本年度は環境への適応が順調に行われました。
- ③ 新規利用者の声かけにおいては、中央区で入所調整したリストに沿って声かけをするシステムになっているが、この数年入所に時間がかかるケースが多くなっており、在宅での介護を希望するご家族も増えているのが現状です。  
声かけにより、断られる理由として  
・他施設との併願のため、すでに他施設への入所が決まっている

- ・現在入所している施設(有料・老健・グループホーム等)で満足している
- ・まだ在宅で、介護をしていきたい

更に 3 月頃から感染が拡大していった新型コロナウイルスの影響が大きく、入所を自粛する傾向が見られました。

## (2) 事業実績について

利用者の平均介護度は 30 年度の 4.49 に対し、令和元年度は 4.44 とほぼ変わりなく推移しています。(別表 2 参照) 特養での対策としては、健康管理下で一層の介護の充実を図るとともに利用者の事故や病気のための入院を極力抑えることです。そのため

①健康管理の徹底、衛生管理の徹底、日常生活での異常に対する早期発見・早期対応の徹底。

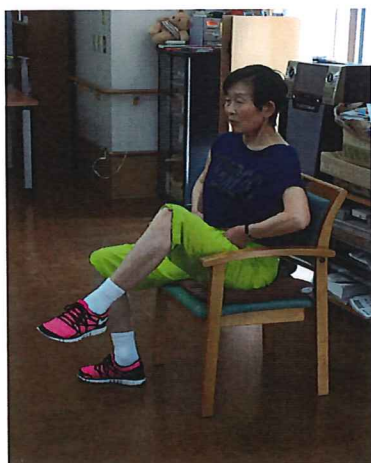
②ハード面の充実として、インフルエンザやノロウィルスの流行に加え、年度末へと感染が拡大していった新型コロナウイルスへの防止策として、空気清浄機他、施設全体の除菌剤の配置などを強化しました。

③嘱託医による利用者の心身の定期的な健康管理として

- ・定期的な健康診断、予防注射の徹底による感染症対策+
- ・精神科医による精神面のケア、認知症状の緩和
- ・歯科医、歯科衛生士の定期的な往診のもと、口腔内の衛生管理による誤嚥性肺炎予防、嚥下機能の維持

その他、言語聴覚士が機能訓練に加わり、嚥下リハ、言語リハに注力しました。

多職種連携によるケアの体制は、今後も更なる充実を図っていきます。



チェアピクス  
尿漏れ予防体操



言語聴覚士による  
言語リハビリ



千葉歯科訪問診療  
定期的な口腔ケア



有資格介護職による  
喀痰吸引

### (3) サービスの内容について

本年度は引き続き、食事、入浴、排泄、接遇といった介護の基本業務をしっかりと行うことはもとより、身体拘束廃止、感染症防止、防災、安全対策、環境整備等にも力を入れて取り組みました。特に感染症防止では、新型コロナウイルスの出現により職員、利用者のマスク着用、手洗い、消毒、検温等の感染防止に注力しました。更にフロア、居室における換気に注意を払い、時間を測っての換気等を実施しました。

レクリエーションやリハビリテーションの充実ということでは、デイサービスと協働してのレク活動、各種の行事やボランティア、インターンシップの積極的な受け入れを行い、利用者の日常生活にうるおいとやすらぎとかがやきが得られるよう努めました。本年度もボランティア、インターンシップとの交流機会を多くもち、普段接することの少ない若年層との世代間交流を通して、利用者の感性に温かい刺激を与えるものとなりました。

しかしながら、年度末に向かって感染拡大していった新型コロナウイルスの影響により、3月以降レクリエーション等も制限され、内部レクのみとなりました。

リハビリテーションは、機能訓練担当の理学療法士を中心に、他職種との協働により、身体、嚥下、言語等の機能面においてより充実したリハビリを実施することができました。「利用者の自己実現を日々の生活に活かしていく」を目標とし、歩行訓練等の身体リハから言語リハにいたるまで、一人ひとりの個別性を尊重した、きめ細やかなリハビリに取り組みました。



表3 レクリエーションにおける効果

プログラム	心身機能への効果
音楽療法	唱歌、懐メロ等は、認知症状の緩和や精神面への良質な刺激となっている
セラピードック	月に2回のセラピードックは、利用者に寄添うことで癒しや、リハビリの効果をもたらせている
健康吹き矢	楽しみながら、自然に呼吸法を体得できる
書道・そろばん	昔、覚えのある方は自然に筆が動き、指が動き、モチベーションが上がってくる
チェアエクササイズ ダンスセラピー	身体を動かし、自由に伸び伸びと身体を表現でき、終わった後も、爽快感が残っている
アロマセラピー	アロマの香りを楽しみながら、五感に刺激を与えることで感性が豊かになってくる
コミュニケーションロボット・パロ、アイボ	パロとの触れ合いにより、認知症の不安感、不穏を緩和してくれる。アイボは、様々な会話を引き出すきっかけになり、精神面の活性化が見られる



アザラシ型ロボット・パロとのスキンシップ



イヌ型ロボット・aiboとの触れ合い

## 2. 短期入所生活介護

### (1) はじめに

ショートステイはキャンセルや特養の空床があり、利用する立場からすれば昨年に続き比較的に利用しやすい状況でした。区内の方については、最長で30日利用を基本

としつつ、抽選から漏れた方についても、急なキャンセルや特養利用者の入院により空いたベッドをより多くの方に利用していただくため、FAXなどで空き情報をタイムリーに提供しています。毎月、区外の事業所へ案内を出していることなどから、区外の方の利用も多く、かなりの成果をあげています。

別表 10 に示してあるように、特養・ショート合計の年間稼働率は、前年度 102.29% に対して令和元年度は 102.54% とほぼ横ばいの状況となっています。ショートステイ単独での年間稼働率は、281.33% であり、昨年度より 27.57% 上昇していることから、特養の稼働率の減少がショートステイのベッド稼働率を上昇させたと言えます。

#### ① 周辺環境の変化

隣接区においても特養、老健の増加等があり、競争激化となっています。

本年度は、3月頃から感染が拡大していった新型コロナウイルスの影響により、ショートステイのキャンセルが多くなり、経営にも支障をきたす兆候が見られています。

#### ② 地域の課題

- ・ 認知症独居高齢者の健康管理 食事・入浴・服薬等
- ・ 認知症高齢者の徘徊・火の不始末等
- ・ 独居高齢者の引きこもりによる認知症の進行
- ・ 高齢者世帯における体調管理
- ・ 高齢者世帯、独居高齢者の金銭トラブル

周辺環境の情報収集・地域の課題を分析し、ニーズを抽出することが重要です。緊急ショート、医療的対応等、多様なニーズにいつでも対応できるだけの層の厚い体制づくりをし、利用者の増員を図っていきます。

表 4 前年度との比較 定員 6 名 (空床利用)

項 目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
年度末平均年齢	82.8 歳	85.4 歳	85.1 歳
年度末平均介護度	2.98	3.11	3.26
年度末平均人数	38 人	59 人	43 人
延べ定員数	2,190 人	2,190 人	2,196 人
1 日平均利用者数	10.8 人	13.0 人	16.9 人
稼働率	179.75%	216.26%	281.33%

#### (2) サービス実施状況

送迎：施設～利用者宅の送迎（ドア ヅ ドアの実現）

エレベーターのない団地等の集合住宅では、階段昇降機(介護ロボット)を活用し、歩行困難な利用者の送迎を可能としました。

介護：身体状況に応じた食事介助・排泄介助・おむつ交換・体位交換・施設内の移動の介助。

食事：事前の面接時に確認し、身体状況に適した食事を提供しています。

入浴：週3回以上。身体状況に応じ機械浴・介助浴・一般浴にて必要な介助を行っています。

個別機能訓練：小集団訓練の他、希望される利用者には、理学療法士による個別機能訓練が受けられます。その他、レクリエーション・音楽療法・セラピードッグなど。

健康管理：毎日のバイタル測定と日々の服薬管理等の健康管理・指導

胃ろう、ストーマ、インスリン、バルーンカテーテル、在宅酸素等の医療的対応。

### (3) サービスに関する苦情・相談

次のような苦情の申し出があり、誠意を持って対応し解決しました。

- ・持って行った衣服が紛失した。
- ・退所時に他人の衣類等が紛れ込んでいる。
- ・同じ部屋の利用者の声が大きく夜眠れなかった。

### (4) 一年の状況と今後の課題

ここ数年の特徴として

#### ①2ヶ月前の申込みが減少

ショートステイの申込みは通常2ヶ月前を基本としているが、本年度の申込み状況もこれまでの実績の半数くらいでした。理由としては、家族の生活スタイルの変化・ニーズの多様化により「2ヶ月前の申込み」という、決められた枠にはまらない家族のニーズが増えてきたことが考えられます。1ヶ月前頃より徐々に増えている傾向です。

#### ②地域、在宅の課題への対応

在宅における生活スタイルが様々なように、ニーズにおいても多様化してきています。地域・在宅における課題が、そのままショートステイ利用につながっているケースが多く、緊急ショート利用が顕著に増えています。

緊急ショートにつながるケースとして

- ・認知症利用者の徘徊、火の不始末によるボヤ、誤薬、異食等、命の危険に直面したケース
- ・認知症利用者の金銭トラブル
- ・独居の認知症利用者における医療的ニーズ：服薬管理、インスリン等
- ・介護者の病気、入院等

地域・在宅の課題は山積みです。認知症の進行により「これまでできていたことができなくなった」ことへの緊急ショート対応は、年々増加傾向にあります。

在宅利用者、家族を支えるためのショートステイの役割は、今後もますます重要となるでしょう。そのためには、いつでも対応できる体制づくりと、職員への教育が不可欠です。し

### 3. 通所介護

#### (1) 利用者の状況

##### ①リハビリニーズへの対応

年齢、性別に関係なくリハビリへのニーズは高く、デイサービスへの目的のひとつでもあります。在宅生活を維持していく上で、身体機能の維持、日常生活動作の維持は重要であり、理学療法士のみならず、看護、介護、相談員が連携してニーズに対応しています。

##### ③ 朝食サービス～夕食サービスまで対応

食事サービスにおいては、本年度も朝食サービス、持ち帰り弁当、夕食サービス等利用への対応を行い、独居、高齢者家族、就労家族等への支援に努めました。

また、食事サービスだけではなく、食前・食後の服薬管理も行っていることで、在宅の負担軽減の役割を担っています。

食事サービスは、年度によって増減を繰り返しつつも、ニーズは根強く継続されています。

##### 《在宅における課題》

- ・独居のため、食事、服薬管理が難しい→ 体調の悪化、病気の進行
- ・高齢者世帯のため食事作りが困難→ 体調の維持が難しく、異常等にも気づきにくい
- ・家族が就労中→ 食事時間をとるのが難しい、不規則になりがち

表5 朝食サービス・持帰り弁当・夕食サービス利用人数  
平成31年4月1日～令和2年3月末

項目	利用人数	延人数
朝食サービス	105人	885人
1ヶ月平均	8.75	73.75
持帰り弁当	240人	2,377人
1ヶ月平均	20	198.08
配食サービス	1人	4人
1ヶ月平均	0.08	0.33
夕食サービス	118人	794人
1ヶ月平均	9.83	66.17





朝食サービス風景



夕食サービス風景

### ③医療的対応について

前年度同様、本年度も医療的対応を必要とする利用者が多くいました。

胃ろう2名、インスリン5名、バルーンカテーテル2名、痰吸引5名、褥瘡処置5名  
 これら医療的対応に応じるため、看護師2名体制をとり、手厚いケアに努めています。今後も医療的ニーズの増大は想定され、デイの職員においても知識とケアの質の向上を図ることが課題です。また、訪問診療を利用している利用者が年々増えており、デイの看護師、相談員と、居宅ケアマネ、訪問診療医、訪問看護師との連携が必須となっています。

令和元年度の利用実人員は別表8のとおり1,183人、利用実人員は前年度1,148人と比べて35人増加しましたが、稼働率は76.78%と、昨年より1.53%下回っています。延べ利用数は、利用者一人あたりの利用回数が月平均8.1回なり、前年よりも約4.7%減少しています。利用者の平均年齢は別表7のとおり男女合計の平均では83.1歳となっています。内訳では男性81.0歳、女性84.6歳で、前年よりも高くなっています。平均介護度も3.14と、前年よりも高いです。

新規利用者においては、医療的ニーズ、在宅における介護者の介護力の低下、家族の就労継続、リハビリ、入浴希望等、様々な理由による申し込みがあります。デイサービスに係わる送迎利用率は98.3%、入浴利用率は83.7%となっています。前述したとおり、特養・ショートに関しては既に100%以上の稼働率であるので、施設の収入を伸ばすにはデイサービスの稼働率を上げることが急務です。

表6 前年度との比較 定員34名

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
年度末平均年齢	80.6歳	80.1歳	83.1歳
年度末平均介護度	2.91	2.92	3.14
実人数	1,110人	1,148人	1,183人

延べ定員数	12,410人	12,410人	12,444人
1日平均利用者数	24.1人	26人	26.2人
稼働率	70.86%	78.31%	76.78%

## (2) 運営状況

### ①行事の実施

開設当初より、利用者の方に生活の豊かさとメリハリを持っていただくために、菖蒲湯や柚子湯など季節に応じた日課活動を取り入れるとともに、特養と合同でイベントを開催しています。

日々のプログラムは、音楽療法、セラピードック、書道、朗読、ファッションショー、そろばん教室、介護予防運動、健康吹き矢、アロマセラピー、ダンスセラピー、リハビリヨガ等、地域や企業のボランティアの支援のもと息長く継続されています。プログラムは特養、デイ合同のレクが多くあり、重度、軽度に関わらず、利用者の心身機能の活性化に大変効果をあげています。また、本年度もペッパーとのレクリエーションの時間を多く持ち、歌やゲーム、リハビリ等、ユニークなコミュニケーションタイムを創ることができました。コミュニケーションロボットとのかかわりは、海外メディアにも多く取り上げられています。



会話ロボット・ペッパーによる  
脳トレーニングレクリエーション



口腔ケアをアシストしてくれる  
ロボホン

バスハイクは、日頃外出する機会の少ない利用者者に好評を博している外出レクです。お花見、紅葉狩りの他、毎回利用者の希望を取り入れた場所を企画し、感性豊かな時間を創るよう努めています。目標は「日々、感動を届ける」 デイサービスで過ごす時間にひとつでも多くの感動を利用者に届けることができるよう、今後も目標としていきます。





春のバスツアー お花見



秋のバスツアー 紅葉狩り



季節のかざりものづくり



ボランティアの方によるコンサート



セラピードッグとのふれあい



チェアエクササイズでのびのびと



八丁堀保育園 園児たちとの地域交流



クリスマス会「ライオンズクラブ主催・てんてこ一座」



表7 主な行事

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お花見 桜を求めて、墨田川から千鳥ヶ淵まで、お花見ドライブを楽しんだ。その他、近所の京橋公園にてお花見を実施、肌で感じるほどの満開の桜に利用者もうっとり。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鯉のぼりづくり、かぶとづくりにと、童心に還って楽しんだ</li> <li>・5月3日～7日まで、菖蒲湯祭り 菖蒲の香りに季節感を堪能した。</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスハイク 浅草雷門、スカイツリー、墨田公園あじさい観賞、他下町の季節感溢れる風情に参加者は感激していた。</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盆踊り大会（地区の女性ボランティア5名、新とみ太鼓の会4名）和太鼓に合わせて、浴衣姿のボランティアの季節感溢れる盆踊り、利用者も参加しての賑やかなひと時だった</li> <li>・スイカ割り大会 デイ・特養合同のスイカ割りは、夏の風物詩として恒例となった。大会後のスイカのおやつは格別である。</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暑気払い そうめん、冷や麦、うなぎの蒲焼、南瓜の煮物等、暑さに負けない夏の味を愉しんだ。</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老の日 利用者、職員と敬老の日をお祝いした。久寿玉を長寿の利用者に割ってもらい、健康寿命の大切さを皆で話し合うひと時を設けた。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の大運動会 特養、デイ合同の大運動会は、利用者が熱中するイベントだった。</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紅葉狩り 北の丸公園から神宮外苑のイチョウ並木までバスハイク。想い出深い利用者も多く、感動のひと時だった。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマスコンサート ライオンズクラブ主催による、恒例のクリスマスコンサート。「てんてこ一座」が参加し、それは華やかなクリスマス会だった。</li> </ul>

1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年会 利用者、職員との新年会は、カラオケによる紅白歌合戦、すごろく、福笑い等、伝統的な正月遊びに興じた。</li> <li>・ミステリーツアー 東京ゲートブリッジまでバスハイク。新年の澄み渡った彼方に初富士がくっきりと浮かび、忘れられないバスハイクとなった。</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月3日の節分は、職員が鬼になって利用者のフロアを駆け巡った。「鬼は外ー 福は内ー！」と、利用者の元気な声が、館内に飛び交った。</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族会 新型コロナウイルスの流行により、本年度は中止となった。</li> </ul>

## ②送迎について

階段昇降機(スカラモービル)を活用することにより、エレベーターのない団地等の集合住宅に住む利用者のデイサービス利用を可能にすることができました。歩行困難なため、階段昇降がネックとなって外出ができなかった利用者を、デイサービス利用に繋げることができたことは、利用者の自己実現のひとつとして大きな成果でした。階段昇降機の支援を必要とする利用者は徐々に増え続け、毎日2名～4名の利用者の昇降を行っています。

送迎においては、中央区他、江東区、港区、千代田区、世田谷区まで実施しており、98.3%の送迎率となっています。



スカラモービル  
コンパクトタイプ



スカラモービル  
車イスタイプ

### ③入浴について

デイサービス利用理由の大きなひとつとして入浴があります。その期待に応えるため希望者には基本的には毎回入浴を提供しており、入浴利用率は 84.6%です。身体状況に応じた入浴形態で対応しています。皮膚の異常、バイタルの変動等、入浴時に気づくことが多く、看護師が 2 名体制で対応しています。

### ④機能訓練

理学療法士による個別機能訓練を実施しています。リハビリテーション病院を退院後通われている利用者も多く、身体機能の維持に努めています。歩行アシスト、免荷式歩行器ポポ、デジタルミラーといったリハビリ・ロボットを活用しながらの訓練は、利用者の方のモチベーションも向上し、リハビリ効果を見せています。

## 4. 特養・デイサービス合同

### (1)各種委員会

各種委員会は役割と人員を常に見直し

- ①年中行事委員会 ②栄養委員会 ③身体拘束廃止委員会 ④排泄・褥瘡委員会
- ⑤ケアプラン委員会 ⑥感染症対策委員会 ⑦事故防止対策委員会 ⑧防災対策委員会
- ⑨リハビリ委員会 ⑩環境・口腔ケア委員会 ⑪安全・衛生委員会(介護職のための)
- ⑫ロボット委員会

等を開催しました。平成 20 年 2 月からは、毎月 1 回の各委員会の会議を開催しています。

### (2)行事

四季折々の各種行事は、3 階フロアを利用して、特別養護老人ホーム・短期入所・通所介護利用者合同で実施する形をとり、年間を通して各種行事に取り組みました。

### (3)防災訓練

防災管理者及び京橋消防団には、現在 2 名の職員が入団しています。新富町会の防災訓練に参加するなど、防災への知識・技術の向上に務めました。新規に採用された職員には、消防機器訓練を随時実施しています。さらに、京橋消防署への研修参加の他、地域等の協力を得て、毎月 1 回「震災・消防訓練」を実施しています。

### (4)職員研修

- ・4 月～3 月：毎月 1 回 早朝研修、夕方研修
- ・本年度より、ネット配信サービスを活用した「e ラーニング研修」を導入。職員が



自分のペースに合わせて、希望するプログラムをいつでも受講することができるというメリットがあります。

表8 資格取得等に向けた職員研修(平成31年4月～令和2年3月)

研修名	特養	通所	訪問
看取り研修	1人	0人	0人
東京都福祉施設等感染症対策指導者養成研修	1人	0人	1人
介護福祉士資格取得研修	0人	2人	0人
口腔ケア研修会	2人	1人	0人

表9 社内研修

No.	名称	開催日	人数	備考
	早朝研修 7:30～8:00 夕方研修 18:00～19:00	平成31年4月初～ 令和2年3月末	特養 デイ	講師：勝野顧問 常勤・非常勤対象
3-1	平成31年度事業計画について	4/1	12人	特養 4人 デイ 7人 栄養士 1人 訪問 1人
3-2	看取りについて	5/6	19人	特養 8人 デイ 8人 栄養士 1人 訪問 2人
3-3	身体拘束廃止について	6/4	17人	特養 7人 デイ 7人 栄養士 1人 訪問 2人
3-4	平成30年度事業報告について	7/1	14人	特養 6人 デイ 6人 栄養士 1人 訪問 1人
3-5	脱水・熱中症・水分補給について	8/5	20人	特養 7人 デイ 8人 栄養士 1人 訪問 3人
3-6	特別養護老人ホームにおける褥瘡ケア・スキンケア	9/2	16人	特養 6人 デイ 7人 栄養士 1人 訪問 2人
3-7	事故防止への取り組み	10/7	16人	特養 6人 デイ 8人 訪問 2名
3-8	認知症高齢者への理解とケア	11/4	18人	特養 5人 デイ 10人 訪問 3人
3-9	ノロウイルス・インフルエンザ感染症の予防と対策	12/9	15人	特養 4人 デイ 8人 栄養士 1人 訪問 2人
3-10	身体拘束廃止等への取り組みについて	1/6	15人	特養 5人 デイ 7人 栄養士 1人 訪問 2人
3-11	尿路感染・新型コロナウイルス等感染症防止対策について	2/3	20人	特養 7人 デイ 9人 栄養士 1人 訪問 3人

3-12	福祉サービスにおける苦情 解決について	3/2	13人	特養 4人 デイ 7人 栄養士 1人 訪問 3人
	登録講師派遣事業 新人研修・振り返り研修			
3-13	認知症を理解しましょう	9/5	13人	特養 10人(新人1) デイ 11人(新人2)訪問 3人



特養・デイ社内研修



特養・デイ合同感染症対策研修

特養・デイ合同介護技術研修

#### (6) ボランティア・実習生の受け入れ

地域交流、デイサービスの日課活動の潤活化および初任者研修の実習の場として受け入れをしました。

定期的なボランティアとして朗読ボランティア、書道ボランティア、傾聴ボランティア等が年12回。その他、デイでは地域の方や、外国の方を含めたボランティア団体が

利用者の話し相手、フロアの手伝いボランティアとして定期的に訪問してくれています。特養においても、第二・第四水曜日に洗濯物整理のボランティアをはじめ、地域の多くの方々の協力、支援を受けています。

実習生は、介護福祉士取得に向けた実習生、教員免許取得実習生を多く受け入れました。また、インターンシップ、中学生ボランティア等昨年度に引き続き積極的に受け入れています。春休み福祉体験合宿については、新型コロナウイルス感染防止のため中止となりました。

実習生、インターンシップ、ボランティアとの交流は、日頃触れることの少ない若年層との世代間交流として、利用者一人ひとりに大変良質な刺激をもたらせる結果となり、今後も積極的に受け入れてゆく方向です。

表 10 令和元年度・実習生等の受け入れ実績

項 目	人 数 (延)
介護福祉士取得	18 人
教員免許取得希望者介護体験	50 人
職場体験	5 人
インターンシップ	15 人
小・中学生ボランティア実習	1 人
イナッコ教室ボランティア	0 人
春休み福祉体験合宿	中止

#### (7) 本年度の取組みについて ～多職種連携の時代～

##### ◆特養

看取り介護への体制づくり・質の向上

介護・看護・栄養士・理学療法士・嘱託医・相談員・ケアマネ等、多職種連携を軸とし、計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)の PDCA サイクルにより、看取り介護を実施する体制を構築、質の向上を目指し多職種の情報共有の強化に取り組みました。

##### ◆デイサービス

運行・入浴・リハビリ・レク活動等、基本に立ち回りサービスを見直すことに努めました。特にリハビリにおいては、利用者の希望、目的を明確にし、在宅生活を踏まえての機能訓練である位置づけとして、理学療法士・介護職・看護師・相談員等が連携して、利用者の生活に根差した機能訓練に取り組みました。

◆本年度も、特養・デイサービスの事業所間、職種間の連携により、情報共有の効率、向上に努め、質の高いサービスを目指しました。

## 8) 視察・取材

本年度も施設の視察、取材に、国内外多くの人が訪れました。年間を通しての視察・取材は85件です。

介護現場におけるロボット活用からAIにいたるまで、年々海外からの関心の高まりが感じられました。



香港特別行政長官来苑



スウェーデン国会第一副議長 来苑



コロンビア コラムニスト取材



オランダ大使館 介護医療チーム 来苑



台湾大学 来苑

表 14

## 見学 一覧

日付	時間	国名	組織名	人数
4月1日	1000-1120	カナダ	カナダ大使館	30名?
4月3日	1330-1530	イスラエル	イスラエル Keshet 12 (チャンネル12)	6名
4月8日	1130-1215	香港	香港特別行政区行政長官	12名(通訳含む)
4月9日	1400-1530		日経BP	1名?
4月15日	1400-1530	スイス	チューリッヒ大学アロンソン・アンヌ	1名
4月19日	1400-1530		comcom 編集部(医療福祉生協)	4名
4月25日	1400-1530		厚生労働省老健局	5名
4月26日	1000-1130	中国	中国病院関係者	5名
5月11日	1330-1430	英国	英国大使館	
5月10日	1100-1130		テレビ東京 マッスルスーツのみ撮影	
5月15日	1400-1530		KDDI	2~3名
5月16日	1400-1530	韓国	ソウル大学看護学科	4~5名(通訳含む)
5月17日	1400-1530	ドイツ	ドイツ学生	1名(通訳なし)
5月20日	1000-1130	スウェーデン	地方労働組合発行 「Kommunalarbetaren」雑誌	4名 (通訳含む)
5月22日	1330-1500	フランス	groupama(相互保険会社)	9名+通訳1名
5月23日	1400-1530	香港	香港理工大学	25名(通訳1名含む)
5月25日	1000-1130	G20 報道機関	アルゼンチン、インド、インドネシア、エジプト、オランダ、カナダ、サウジアラビア、セネガル、タイ、チリ、南アフリカ、メキシコ	11名+同行者3名(通訳1名含む)
6月2日	1400-1530	スウェーデン	早稲田大学 国際部	23名;通訳1名
6月3日	1400-1530	フランス	フランス TV	3名
6月6日	1000-1130	シンガポール	TanTockSeng 病院	10名
6月10日	1330-1500	ベルギー	ベルギーTV	8名
6月11日	1400-1500		高齢者住宅新聞	1名
6月14日	1000-1130		草加社協	25名
6月18日	1000-1130	香港	保良局(Po Leung Kuk)(慈善団体)	25名
6月28日	1400-1530	スウェーデン	スウェーデン国会第一副議長	4名



7月1日	1400-1430	スウェーデン	山崎さん撮影	1名
7月1日	1400-1530		品川総合福祉センター	2~3名
7月4日	1400-1530	シンガポール	シンガポール記者	1名
7月8日	1400-1530	ドイツ	ドイツRTLTV	5名
7月9日	1000-1130	韓国	ドンシン大学(言語治療学)	8名
7月16日	1400-1530	英国	North One Television	11名
7月17日	1400-1530	韓国	韓国ヘルスメディTV 韓国外国語大学 合同	4名+3名
7月19日	1000-1130	韓国	韓国テグハニ大学	12名+通訳1名
7月22日	1000-1130		日本医療企画(介護ビジョン)	2名
7月24日	1000-1130	オランダ	FUNDIS(健康管理団体)	4名
7月25日	1400-1600		三菱総研	4名
8月6日	1400-1530		厚労省老健局	5-6名
8月21日	1040-1130	コロンビア	コラムニスト(外務省紹介)	1名+通訳
8月21日	1500-1600	カナダ	リリィカールトン大学准教授(外務省紹介)	3名+通訳+エスコート
8月26日	1400-1530	中国	カントリーガーデングループ	2名
8月27日	1000-1100	チリ	TV司会者(外務省紹介)	1名+通訳
8月27日	1000-1130	米国	上智大学(ポートランドコミュニティカレッジ)	19名+通訳2名
8月30日	1400-1530		神戸婦人大学(生涯学習の場)	2名
9月5日	1400-1500		チャンネル4(下見)	3名
9月13日	1400-1530	米国	玉川大学(ドレクセル大学)	24名+2名
9月19日	1400-1500	中国	日中友好協会(下見)	
9月22日	0930-1130	中国	カントリーガーデングループ	
9月24日	1430-1600	香港	社会福祉局(SWD)	8名
9月25日	1400-1530		長崎県身体障害児者施設協議会	14名
9月27日	1400-1530	中国	福寿康	7名
9月28日	1400-1500	香港	香港沙田病院	2名+通訳
9月30日	1000-1130	中国	武漢リハビリ病院	15名
10月3日	1500-1700	シンガポール	テマセックポリテクニック(学生)	25名+通訳2名
10月8日	1400-1530	カナダ	ソレイユ紙記者	1名+通訳1名
10月10日	1400-1530	イスラエル	医療施設バイトバレル社	2名
10月11日	1400-1530	ドイツ	デトモルト大学教授	3名
10月15日	0930-1030	オランダ	オランダ大使館経由(介護・医療・投資・大学等企業)	20名+3名



10月16日	1400-1530	オーストラリア	グリフィス大学准教授	2名+通訳1名
10月18日	1400-1500	スペイン	通信社EFE	2名+通訳1名
10月22日	1000-1130		鶴ヶ島市民生委員	28名
10月25日	1400-1530	オランダ	FUNDIS	10名
10月28日	1400-1530	スウェーデン	ナショナルスウェディツシュラジオ	2名+通訳1名
10月29日	1430-1600	中国	中国社会科学院青年研究者代表团	26名+通訳2名
10月30日	1400-1530	中国	鄭州中原晚晴養老サービスセンタ ー	10名+通訳1 名
11月6日	1015-1145		厚労省老健局	?名
11月11日	1400-1545	中国	中国青年メディア関係者代表团	28名+2名
11月13日	1400-1530	中国	中国山東省	5名
11月18日	1000-1130	オランダ	ロッテルダム市高齢者介護局局長	?名
11月19日	1400-1530		障害者施設あげお	?名
11月22日	1400-1530	ドイツ	ドイチェ・ヴェレ国際テレビ放送局	4名
11月28日	1400-1530		長岡商工会議所	12名
11月29日	1400-1500		SMS	
12月6日	1400-1530		BBC	2名
12月9日	1400-1530	英国	英国大使館 スコットランド大学生他	3名
12月13日	1400-1530	中国	上海億慈リハビリ技術有限公司	7名
12月18日	1400-1530		SMS	1-2名
1月13日	1300-1430	中国	北京コンビニ経営者(介護施設開 設)	10名+通訳1 名
1月13日	1500-1600			
1月21日	1400-1530		名古屋総合リハビリテーション事業 団	4名
1月22日	1400-1530	スペイン	エルムンド紙記者	1名+通訳1名
1月23日	1400-1500	シンガポール	統合医療機関	1名+通訳1名
1月30日	1030-1200	オーストラリア	ジャーナリスト	1名+通訳1名
2月4日	1400-1530	韓国	中央日報	2~3名
2月5日	1400-1530	台湾	台湾大学	6名+通訳1名
2月6日	1400-1530		会計検査院(眠りSCAN・マッスルス ーツ)	2名
2月13日	1400-1530	ドイツ	学生	1名+通訳1名
2月14日	1400-1530		製品評価技術基盤機構	4~5名
2月18日	1500-1600		釧路(福)扶躬会(ふきゆうかい)	2名

## (9) 地域公益活動

### ①東京子育て応援事業

平成 28 年 6 月～平成 30 年 3 月末の 2 ヶ年にかけて東京都の助成事業「東京子育て応援事業」に取り組んできましたが、助成期間を過ぎた後も継続して運営してきました。平成 30 年 4 月からは、法人の独自事業として「子ども英会話教室」を開催し「子どもそろばん教室」「子ども食堂」と併せて、地域の子どもたちの安心・安全な居場所づくりとして運営を展開してきました。

### ②平成 30 年度子供が輝く東京・応援事業

「成果連動型助成(既存の取組みレベルアップ)」に選定

平成 30 年度子供が輝く東京・応援事業に選定されました。成果連動型助成という、成果に応じて 1/4、3/4 と助成が連動していくため、成果をより見える化していかなければならない取組みです。

- ・事業実施期間：平成 31 年 4 月～令和 3 年 3 月 31 日
- ・実施事業名【未来の社会で輝ける子育て支援事業の実現】
- ・事業計画

#### 【プログラム】

- 1) 1 カ月め：アンケートの作成  
登録書の配布  
地域への説明会(学校、保護者等)
- 2) 2 カ月め：評価指標のデータの収集方法と書式の整理  
登録書の受領  
体験学習の実施
- 3) 3 カ月め：指標データの評価と進め方の見直し・改善案の検討

#### 【成果目標】

- 同世代、多世代とのコミュニケーションを取りながらの食事は、食べることへの楽しみを育み、感性を養い、孤食問題への一助となる。
- そろばん教室で数多くの問題を繰り返し反復練習することによって忍耐力を鍛え、英会話教室で異文化と触れ合うことで国際感覚を養うことを目指す。
- 介護現場体験を通して「高齢者と介護」というテーマに自然に向き合える人間形成を実現する。

#### 【実施状況】

- 新とみ 子どもそろばん教室+子ども食堂 7 回開催
- 新とみ 子ども英会話教室+ 子ども食堂 8 回開催
- 土支田 子どもそろばん教室+子ども食堂 4 回開催
- 土支田 子ども英会話教室+ 子ども食堂 4 回開催

※戸山いつきの杜については、令和2年3月15日より実施の予定だったが、感染症の流行により延期となった。

## 子ども英会話教室・そろばん・みんなで食事

開智日本橋学園・上智大学留学生のボランティアの皆さんと



## 5. 訪問ヘルパーステーション

### (1)はじめに

平成28年3月1日、新とみ併設として「ウィング訪問ケアステーション」を開設しました。本年度も新規利用者の開拓に力を入れましたが、移動時間の効率性・ヘルパーの負担軽減・業務効率を考え、近隣でのサービス開拓に注力いたしました。

1. サービス提供時間      8時30分～18時(時間外については応相談)
2. 実施地域                      中央区・港区・千代田区・江東区
3. サービス内容                身　　体：排泄介助、オムツ交換、食事介助、口腔ケア等  
生活援助：掃除、買い物、デイサービスの送迎支援等
4. 本年度利用者数      56人      昨年度 52人
5. 新規利用者数        16人      昨年度 26人

表 15                      要介護度別利用者状況

要介護度	30年度利用人数	30年度延人数	令和元年度利用人数	令和元年度延人数
要支援 1	3人	151人	7人	234人
要支援 2	6人	147人	5人	119人
要介護 1	9人	195人	8人	264人
要介護 2	11人	543人	11人	587人
要介護 3	9人	747人	11人	935人
要介護 4	7人	109人	7人	837人
要介護 5	7人	748人	7人	687人

### ① 利用者の状況

表15にあるように、要支援から要介護5の利用者まで、生活、身体介助と幅広いニーズがあります。要支援の利用者には、利用者の自立支援を促す援助を行うことが重要であり、質の高い援助技術が求められます。

在宅においては、介護度の高い利用者が訪問介護サービスを利用しながら在宅生活を維持しており、利用者はもとより、家族の生活を支える上でも訪問介護は重要な役割を果たしています。

今後、訪問看護、訪問診療等様々なサービス提供事業者との連携が不可欠であり、情報共有を図りながら、清潔かつ安心・安全な在宅生活の維持に努めます。

また、本年度は3月頃から感染拡大していった新型コロナウイルスの影響を受け、訪問サービスのキャンセル等があり、売り上げにも影響がありました。

更に訪問ヘルパーへの感染防止対策にも注力しました。

## ②地域・在宅の課題

- ・在宅における、劣悪な療養環境の問題
- ・認知症状の進行におけるもの盗られ妄想による金銭トラブル
- ・近隣住民とのトラブル
- ・家族の介護ストレスによる心疾患

これら地域・在宅における課題は、訪問ヘルパーが関わるケースも多々あり、研修を始めとした教育は必須であり、質の高いサービス提供が急がされます。



(別表1)

## &lt; 年度末平均年齢 &gt;

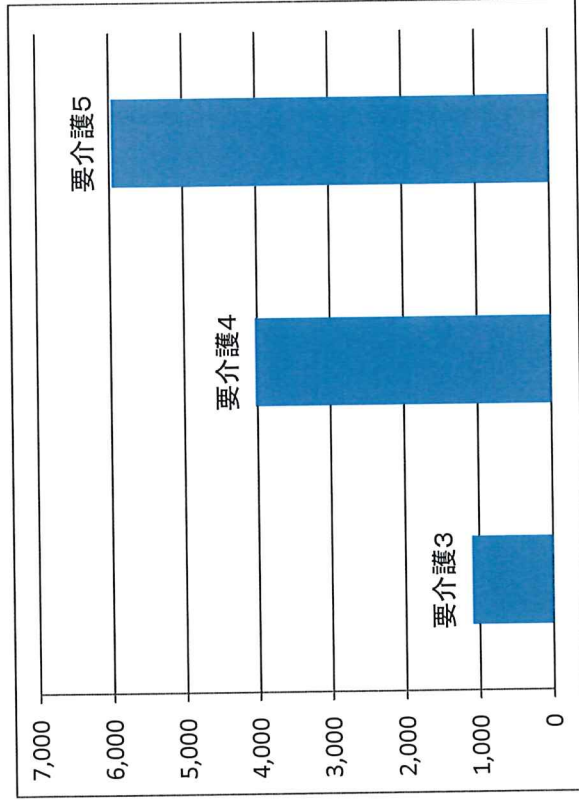
性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	6名	83.7	78～90
女	27名	88.9	79～100
(全体)	33名	88.0	78～100

(別表2)

## &lt; 月別利用者の状況 &gt;

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護3	90	93	90	93	71	90	93	90	93	93	107	93	1,096
要介護4	289	297	289	334	341	330	341	330	360	372	348	393	4,024
要介護5	506	511	497	482	490	494	516	510	515	494	468	482	5,965
計	885	901	876	909	902	914	950	930	968	959	923	968	11,085
要介護平均	4.47	4.46	4.46	4.43	4.46	4.44	4.45	4.45	4.44	4.42	4.39	4.40	4.44
実人員	32	32	33	33	34	32	31	31	32	33	34	34	391
述べ定員数	1,200	1,240	1,200	1,240	1,240	1,200	1,240	1,200	1,240	1,240	1,160	1,240	14,640
1日平均利用者数(A)	29.5	29.1	29.2	29.3	29.1	30.5	30.6	31.0	31.2	30.9	31.8	31.2	30.4
稼働率	73.75%	72.66%	73.00%	73.31%	72.74%	76.17%	76.61%	77.50%	78.06%	77.34%	79.57%	78.06%	75.72%

(別表3)



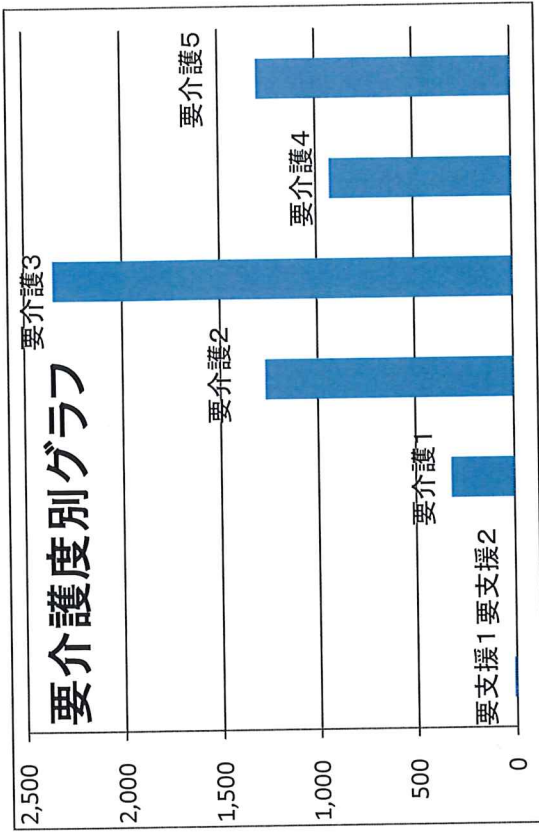


(別表4)

&lt;年度末平均年齢&gt;

性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	18名	83.1	71～90
女	25名	86.6	69～100
(全体)	43名	85.1	69～100

(別表6)



(別表5)

&lt;月別利用者の状況&gt;

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1				9									9
要支援2													0
要介護1	13	27	39	34	29	12	37	23	13	14	24	53	318
要介護2	120	108	90	92	140	131	150	119	99	114	72	34	1,269
要介護3	132	231	191	224	224	174	169	229	195	184	165	236	2,354
要介護4	118	95	81	35	54	80	81	64	70	72	97	80	927
要介護5	92	94	121	142	149	149	99	103	118	94	71	69	1,301
計	475	555	522	536	596	546	536	538	495	478	429	472	6,178
要介護平均	3.33	3.22	3.30	3.25	3.26	3.41	3.10	3.20	3.37	3.25	3.28	3.17	3.26
実人員	58	60	59	58	61	57	51	48	60	56	53	43	664
延べ定員数	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	174	186	2,196
1日平均利用者数(人)	15.8	17.9	17.4	17.3	19.2	18.2	17.3	17.9	16.0	15.4	14.8	15.2	16.9
稼働率	263.89%	298.39%	290.00%	288.17%	320.43%	303.33%	288.17%	298.89%	266.13%	256.99%	246.55%	253.76%	281.33%

ショートステイ(介護予防含む)(定員6名)

(別表7)

&lt; 年度末平均年齢 &gt;

性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	38名	81.0	62～97
女	51名	84.6	66～96
(全体)	89名	83.1	62～97

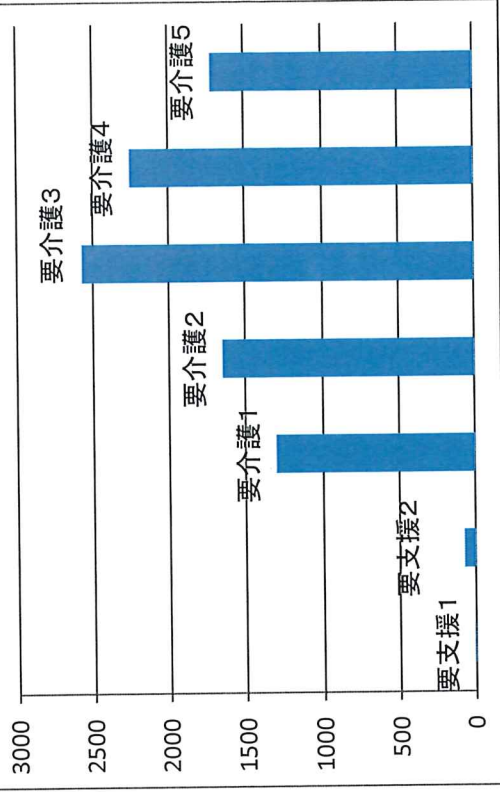
(別表8)

&lt; 月別利用者の状況 &gt;

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	5												5
要支援2	7	9	8	9	2	2	2	1	1	6	9	8	70
要介護1	141	144	124	104	89	91	89	103	98	103	99	101	1,297
要介護2	140	148	157	180	180	165	153	137	116	97	99	87	1,646
要介護3	280	267	246	192	186	156	186	173	201	220	202	202	2,568
要介護4	176	183	153	160	183	183	200	194	208	198	211	216	2,252
要介護5	111	125	139	136	153	151	137	146	145	164	151	158	1,716
計	860	876	827	798	798	748	767	754	769	788	771	772	9,554
要介護平均	2.94	2.98	3.01	3.07	3.08	3.18	3.18	3.19	3.24	3.27	3.26	3.29	3.14
実人員	102	107	107	105	102	96	93	93	95	98	96	89	1,183
述べ定員数	1,020	1,054	1,020	1,054	1,054	1,020	1,054	1,020	1,054	1,054	986	1,054	12,444
1日平均利用者数(人)	28.7	28.3	27.6	26.6	25.7	24.9	24.7	25.1	24.8	25.4	26.6	24.9	26.2
稼働率	84.31%	83.11%	81.08%	78.18%	75.71%	73.33%	72.77%	73.92%	72.96%	74.76%	78.19%	73.24%	76.78%

(別表9)

## 要介護度別グラフ



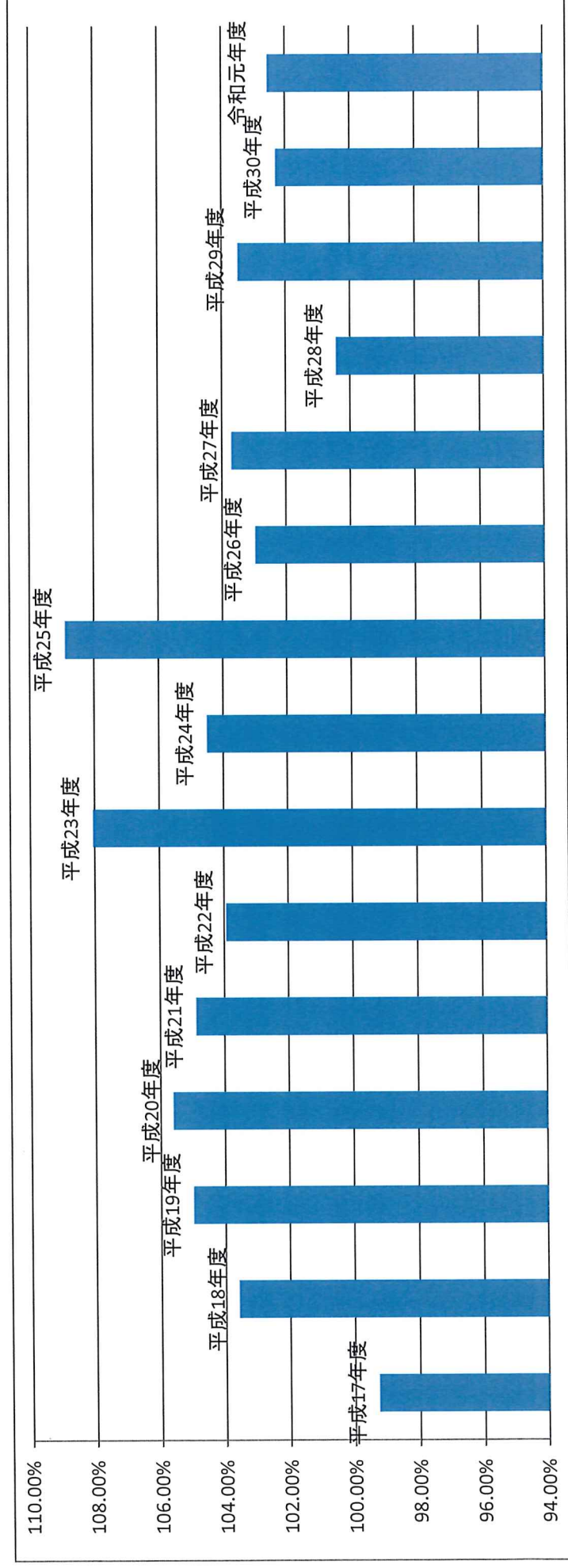


(別表10) &lt;月別稼働率&gt;

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特養 ・ ショートステイ	885	901	876	909	902	914	950	930	968	959	923	968	11,085
計	475	555	522	536	596	546	536	538	495	478	429	472	6,178
延べ定員数	1,360	1,456	1,398	1,445	1,498	1,460	1,486	1,468	1,463	1,437	1,352	1,440	17,263
稼働率	98.55%	102.10%	101.30%	101.33%	105.05%	105.80%	104.21%	106.38%	102.59%	100.77%	101.35%	100.98%	102.54%

特養・ショート（定員46名）

(別表11)



稼働率

17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
99.26%	103.59%	104.99%	105.61%	104.88%	103.93%	108.05%	104.50%	108.88%	102.96%	103.69%	100.42%	103.48%	102.29%	102.54%